

事業所名		pispisキッズ札幌南		支援プログラム(児童発達支援)		作成日		2025 年		4 月		1 日			
法人(事業所)理念		『子どもたちが人生の選択肢を広げ、自らの力で幸せな未来を創り出せるよう共に歩み続けます。』を信念としています。 児童福祉業界では、DX(デジタルトランスフォーメーション)が遅れていると言われています。業務効率化や多角的なアイデア創出が必要であるにもかかわらず、報告書作成・計画書作成などに膨大な時間がかかり、本来注力すべき子どもとの時間が削られてしまう課題があります。 そこでpispisキッズでは、AIを積極的に活用し、書類作成や情報整理を効率化することで、属人的な療育を減らし、誰でも一定の質を担保できる仕組みをつくります。 その結果、子どもたちと向き合う時間を増やじ子どもたちの未来を切り拓く支援に注力するという取り組みを進めています。													
支援方針		pispisキッズは、発達に課題を抱える未就学児0歳から6歳)を対象とした支援を通じ、子どもの成長を支え、家庭や地域社会での生活の質を向上させます。個々の子どもの発達特性やニーズに応じた支援を提供し、可能性を最大限に引き出すことを目指します。 子どもの状況に合わせて個別支援・集団支援・専門的支援・日常生活のサポート等の発達支援を行うとともに、社会適応の促進・保護者支援・地域社会との連携も展開していきます。													
営業時間		9 時		0 分		18 時		0 分		まで		送迎実施の有無		あり なし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・食事や排泄の場面で、行程を視覚的にわかりやすく示す(ピクチャーカードや手順表の活用)。 ・手洗いや歯みがきを歌や絵本を使って楽しく学ぶ時間を設ける。 ・着脱を少しずつ段階に分けて支援し、自分でできた時は具体的にほめる。 ・遊ぶ前や出かける前にルールや注意点を簡単に共有し、確認する ・怪我の応急処置や体調の変化を伝える練習(「痛い」「しんどい」の表現方法を教える) ・発達特性に合わせた安全対策(クッション材の設置、動線の確保など)													
	運動・感覚	・室内外での遊びの中に、走る・跳ねる・投げる・登るなどの全身運動を取り入れる。 ・粘土遊び、紐通し、指先遊びなどで、手先の器用さを養う。 ・感覚遊び(スライム、砂、水、感触が異なる素材など)を用いて、五感を刺激する ・個々の発達段階に合わせ、成功しやすい難易度に調整(道具のサイズや材質を工夫する等)。													
	認知・行動	・視覚刺激が強すぎる環境を調整(照明や掲示物を必要最低限にするなど)。 ・子どもが落ち着いて集中できるよう、空間を仕切ったり音を軽減したりする環境づくりを工夫。 ・子どもが関心を持ちやすい素材やオモチャを用意し、少しずつ新しい遊びを提案する													
	言語 コミュニケーション	・絵カードや写真を用いたやりとりで、言葉とイメージを結びつけやすくする。 ・1回の指示を短くシンプルにし、動作を視覚やジェスチャーで補足する。 ・子どもが言葉を理解しやすいよう、必要なキーワードだけをゆっくりハッキリ伝える。 ・読み聞かせの後に簡単な質問をしたり、子どもに絵を指さしてもらったりして会話を促す。													
	人間関係 社会性	・朝の会や帰りの会など、見通しが持てるように写真やイラストで視覚支援を行う。 ・レク活動等を行なう際に、わかりやすい形で役割を示し、成功体験を積ませる。 ・子どもの理解度に合わせ、ルールを簡潔にまとめたカードを提示する。 ・「今は○○君が使っているから、次に使おう」というように順番を視覚的に提示(順番表や砂時計の活用)。 ・トラブルが起きた際には、感情の整理をサポート(気持ちを言葉で表す、落ち着ける場所の提供など)。													
家族支援		・発達の特性や診断に関する説明・情報提供を行なう。 ・保育園や小学校など、地域資源の紹介を行なう。 ・家庭での関わり方・問題行動等の対応や子供への声掛け。					移行支援		・相談支援事業所、保育所・幼稚園(または認定こども園)、自治体の相談窓口(市区町村の障害福祉担当や教育委員会)などと連携し、就学前段階で子どもの発達状況や特性を共有。 必要に応じて「就学相談」や「就学前教育相談」を受け、通常学級か特別支援学級か、または特別支援学校を選ぶかなど、就学先の検討をサポートする。						
地域支援・地域連携		・相談支援事業所、保育所・幼稚園(または認定こども園)、自治体の相談窓口(市区町村の障害福祉担当や教育委員会)などと連携し、子どもの発達状況や日々の様子を互いに共有し合い、子どもの療育の質の向上に繋げる。					職員の質の向上		・AI活用により、AIが提案する新しいアイデアや言い回しから、療育の幅が広がったり、職員が自分だけでは気づけなかった着眼点を得られる。 ・定型的な事務作業をAIがサポートしてくれることで、pispisが本来大切にする「子どもたちの未来を見据えた支援」に注力可能になる。						
主な行事等		・クッキングイベント ・季節に合わせた製作 ・動物園や科学館等の博物館相当施設や社会教育施設に訪問													